

情報科学習指導案

指導者 T 1 山根 僚介
T 2 平田 修

1 日 時 平成 1 6 年 1 1 月 2 5 日 (木) 2 校時

2 学 年 第 4 学年 1 組 2 7 名 [メディアルーム]

3 題 材 名 尾道再発見！～その情報の活かし方～

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、スキャナ・プレゼンソフトの操作方法を習得するという【情報リテラシー】と、(プレゼンソフトに限らず)如何に相手に分かりやすく情報を伝えるかを学ぶ【情報コミュニケーション】の 2 領域を扱う。

情報科の中学年目標には、「情報機器を活用して、より多くの人々とコミュニケーションができるようにする」とある。国語科でも紙芝居や劇などの発表会をしてきているが、それに加えてパソコンによるプレゼンテーションができるようにさせることをねらいたい。

本題材では、プレゼンソフトという表現手段を習得し、その手段を用いることによって自分の持つ情報を伝えていく学習を行う。しかし、そのみが優れた方法というわけではなく、場合に応じて伝える方法を取捨選択できるということも大切にしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、パソコンを使った学習に興味を示す子が多く、情報科の授業のみならず、他教科でパソコンを使う時も大変楽しみながら学習している。

プレゼンソフトの学習は 4 年生にとっては初出であり、パソコンを用いたプレゼンテーションそのものに慣れておらず戸惑うことが予想される。しかし、伝えたいことを的確に伝える発表の学習は、情報科において今までの学年で発達段階に応じて学習してきている。また国語科では、1 学期に「生活の工夫を伝えよう」で、班ごとに調べたことを発表する学習をしている。ここでは、紙芝居、寸劇、クイズなど、さまざまな方法を体験しているので、その仲間の一つであるパソコンによるプレゼンテーションの意味はすぐに理解できるものと考えられる。

また、本単元で扱うソフトは初めて使うソフトなので、操作についても windows 用ソフトに共通する基本操作しか理解していない。

タイピングは 1 学期終了時に学級平均が 59 打鍵 / 1 分 であった。タイピング能力を伸ばし、表現力の一助としたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、初めて使うソフトであるので、その操作方法是丁寧に指導したい。また、モジュールタイムなどで、タイピングの練習も継続的にやりたい。

そこで、第 1 次でスキャナとプレゼンソフトの使い方を学ぶ。具体的には、ファイル操作、メニュー操作、部品加工、アニメーションなどから初歩的な内容を押さえていきたい。また、わかりやすいまとめ方(色使いやフォント)についても例示しながら指導する。

(それと並行する形で郷土科において「尾道の小路」を班ごとに調べていく活動をする。班構成は 8 班とし、それぞれが違う「小路」を調べるようにする。)

第 2 次は、郷土科で調べ終わった段階で各班で収集した情報をプレゼンソフトでまと

める作業に入る。それまでに学習しているプレゼンソフトの使い方や、パソコンによる表現などのよさを生かして主体的なまとめをさせたい。最終的には、まとめたことを他の班に発表することを目的とし、わかりやすい発表とは何か、学校放送『しらべてまとめて伝えよう』第10回「発表の名人になろう」を視聴して考えさせる。

第3次では、本発表であるプレゼンテーションを行う。発表する班は、国語科などで学んだ発表を生かして、わかりやすい発表をさせたい。聴く班は、自分たちが調べたこと、学んだこと、工夫してきたことと比較し、伝わりやすい発表であったかを意見交換をさせたい。

5 題材の目標 (□ ...リテラシー ■ ...コミュニケーション)

- 調べたことを明確に伝えようと意欲を持って活動する。

(情報への関心・意欲・態度)

- 郷土科で調べた内容を、スキャナや画像・音声などの素材と共に用い、「プレゼンソフト」を使って簡単なストーリーにまとめることができる。
- 伝わりやすさを考えて発表することができる。

(情報活用の実践力)

- プレゼンソフトの簡単な操作方法がわかる。
- 伝わりやすい発表の仕方がわかる。

(情報活用についての理解)

6 評価規準

情報への関心・意欲・態度	情報活用の実践力	情報活用についての理解
調べたことを活かして相手に伝えようと、意欲的に学び、行動している。	得た情報をプレゼンソフトを用いて相手に理解しやすく伝えることができる。	プレゼンソフトやスキャナの操作方法、および情報の活かし方(情報のまとめ方、伝え方)を理解する。

7 指導計画(全11時間)

次	学 習 内 容 (時 数)	評 価				
		関・意・態	実践力	理解	評価規準	評価方法
1	○ プレゼンソフトの操作方を学ぶ(4)	○			・ 基礎的なメニュー操作、スライド操作、部品加工、アニメーション効果及び、スキャナの操作を理解する。	発言状況 行動観察
2	○ プレゼンソフトで情報をまとめる(4)	○			・ 郷土科で得た情報をプレゼンソフトでまとめることができる。	発言状況 行動観察
3	○ プレゼンテーション(3) 本時(1/3)	○			・ 伝わりやすさを考えて発表できる。 ・ 伝わりやすい発表の仕方がわかる。	発言状況 行動観察 テスト

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 素材をもとにプレゼンソフトで編集し，プレゼンテーションで意見交換ができる。
(情報コミュニケーション)

(2) 観点別評価規準

- 情報への関心・意欲・態度

情報を活かした発表にするため，意欲的に行動する。

情報活用の実践力

プレゼンソフトを用いてプレゼンテーションができる。

(クリックのタイミングは適当か，説明が画面と合致しているか等)

情報活用の理解

伝わりやすい発表方法を理解する。

- (3) 準備物 (T) プレゼンソフト
 (P) プレゼンファイル 小路の資料

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法	指導者の役割
1 前時に学習した「伝わりやすい発表」とは何かを確認する。	○何を伝えたいのかを明確にするよう助言する。			T 1 : 全体指導
2 ファイルの完成。	○テキストボックスを加えさせる。	○的確に操作できているか。	行動観察	T 1 : 個別指導 機器操作
3 各班で発表の練習をする。	○練習の様子を観察し，個別指導する。 ○プレゼンファイルも必要があれば修正させる。	○意欲的に練習しているか。 ○伝わりやすい発表になるよう工夫しているか。	行動観察	T 2 : 個別指導 T 1 : 個別指導 機器操作
4 プレゼンテーション	○活発に意見交換ができるよう促す。	○プレゼンソフトを活用できているか。 ○他班の発表について感想を持っているか。	発表 行動観察 発言状況	T 1 : 全体指導 T 2 : 評価
5 まとめ 感想の発表	○プレゼンが終了した班は反省を，次時の班には展望を述べさせる。	○伝わりやすい発表について理解しているか。	発言状況	T 1 : 全体指導 T 2 : 評価